



HSK

しもつき
霜月号

NO.112 2009.11.10号

Advocate

1973年1月13日第三種郵便認可 HSK通巻番号452号
発行/2009年11月10日
編集者/石澤 利巳
住所/〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F
特定非営利活動法人 札幌・障害者活動支援センターライフ
TEL 011-633-6666 FAX 011-615-4132
HP <http://npolife.net/>
発行/北海道障害者団体定期刊行物協会
定価/200円

第3回

いんでないかい バザー



が開催されました!!

開催レポート

いんでないかいバザーを終えて

もじや 永島 勝章

去る、10月19日たねや・もじや内に於いて、いんでないかいバザーを行いました。

私はバザーで実行委員長をやらせていただきました。私にとって、バザー自体が初めての経験だったので、手探りの中でしたが、実行委員の皆さん、スタッフの皆さん、家族会の皆さんのおかげで無事に行なうことができました。

ポスター作り、チラシのポスティング、売り物の整理、会場作り等とご協力いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。皆さん、本当にありがとうございました。

当日は、予想していたよりもお客様に来ていただくことができ、各売り場も売れゆきも良く、お客様と売り場・休憩室にて交流を深めている場面が見受けられ、とても良かったと思います。

「オセロ～全道大会優勝者に挑戦～」というオセロ対決を企画したところ、日本オセロ協会北海道支部の佐々木惣平さんが、たねやのスタッフの岡林三段（第36回オセロ全道大会優勝者）との対戦のため参加してくれました。普段、遊びの中でやっていた、オセロも実際は奥が深いゲームなんだと改めて感じられる企画だったので、成功したと思います。

最後に、来年も行うならば、もっと多くの地域の方たちに来てもらえる工夫をして、ライフのことを今以上に知っていただけるように頑張りたいと思いました。



いんでないかいバザー

きばりや 星 悠

バザーでたくさんお客さんがきてくれました。ぼくは売り子をやりました。お客さんがきてうれしかったです。お客さんがマグカップとか皿とかトランプとか買ってよかったです。人形もかってくれてほんとうによかったです。

きばりや 濱中 孝仁

みんなでたくさんマフィンを手がかうので一生懸命やっても出席委員でお客様に売ること金で3人でたくさんマフィンを手がかうことにしました。お客さんにうれたこと、コップや桶とうれしかったのしかった。人たちに最後がんばったのでおわりを11時から3時まで、ジュースを飲んで、焼きそば、うどんを食べました。

オセロをやるのがうまく、たくさんの人がやっていました。いろいろ最後に終わりがんばりました。

大きな声が出るようになりました。

たねや 宮澤 智成

僕は、はじめ緊張して「いらっしゃいませ」と「ありがとうございました」の声が、小さくなっていました。もっと大きな声を出そうと思っても、胸がゾクゾクし僕はかたまってしまい、大きい声が全然だせませんでした。注意されました。でも、僕は「いらっしゃいませ」と「ありがとうございました」をくりかえしているうちに、だんだんできるようになりました。

バザーでたくさん売れました

ひだまり 石田 程哉

第3回いんでないかいバザーが開かれました。ひだまりブースでは、いつもの定番の売り物を持っていきました。思ったよりも売れてひだまりと何回も往復していました。

厨房の方では、うどんと焼きそばとつぶ貝を販売しました。焼きそばは午前中であっという間になくなりました。

メインであるオセロの対局は、見ていておもしろかったです。

今回のバザーはけっこうもりあがったので、またやりたいと思いました。

家族会レクリエーションに参加して

THE ☆レクリエーション

きばりや 石川 和寛

9月27日(日)11時30分から福井10丁目にある五天山公園で家族会恒例のレクで焼肉パーティーが行なわれました。出席したのはひだまりからスタッフを含め10名、きばりやから俺、織本、濱中、真光、岡田、カフェから山本の6名、もじやはいなくて、たねやから3人に保護者の方々。自分は福井4丁目に住んでいるので歩いて行きました。

11時に始まるはずでしたが、食事の準備ができなかったため、30分遅れで始まりしました。外は結構暑かったし、自分の家から3、40分かけて歩いて行ったので、しっかり食べることができました。昼間からビールを飲むことができたのは、このような恒例行事があるときだけだと思います。

週間天気予報は晴れになってたので、バザー

の売れ残りできばりやの地下に残って眠ってる遊び道具を何種類か持ってけば、また遊べたのにと思いました。

外でまた、何かをするのであれば、今度は持って行きたいです。今度はアノ人といきたいな。

おいしかったホタテとホッケとラム

たねや 増田 真理子

家族会のバーベキューは、朝早く西区民センターに集まって、吉川さんの車で行きました。場所は、西区にある五天山公園に行きました。みんな集まってくる間に公園で遊んだり、お散歩をしていました。そしてみんなが集まってきました。

いよいよバーベキューがはじまりました。頼んだのは、お肉と野菜と魚貝類でした。私はおいしく食べました。一番おいしかったのは、ホタテとホッケとラムのお肉が、一番おいしかったです。後は、おなかいっぱいになりました。その後にゴミを投げたり、リングプルとキャップを集めたり、ペットボトルのラベルを取ったりしてました。

今日は、元気で晴れてよかったです。五天山公園ははじめて行きました。人がいっぱいいて、公園はとてもきれいでした。家族会は楽しかったです。

家ぞく会のバーベキュー会で

ひだまり 蜂谷 和輝

いい天気でバーベキューびよりでした。ぼくは、2時間でいっぱい食べました。楽しかったです。

バーベキューに行って

ひだまり 高橋 繁広

天気は良好で公園でバーベキューに行きました。みんな肉をガブガブ食べてたため、ボクはあまり食べれませんでした。いっしょに行ったお父さんは食べた後、ねてしまいました。

みんな食べるのはいいけど「これやけてるから食べていいよ」というえんりよはないのかな？

ひだまり 吉川 卓哉

みんなといっしょにバーベキューができてたのしかったです。おにくもたくさんたべてとてもおいしかったです。またらいねんもあたらさんかしたいです。



■ 第26回 共同連全国大会参加報告～その2 ■

共同連愛知大会に参加して

ヘルパーステーション 繭 結
所 長 佐々木 泰彦

共同連全国大会に参加してきました。21日から23日の期間でしたが、会場が名古屋市なので、当日だとしんどいと思い、20日の夜に出発することにしました。機内の席のことでごたごたするのが分かっていたので、空港には2時間前に行きましたが、それでも余裕がありませんでした。何とか曲がらない足でも座れる場所がとれ、無事に名古屋空港には着きましたが、ホテルへの到着は午後10時を過ぎていました。それからみんなで晩御飯を食べ就寝。翌日、全大会に間に合うように会場に向かいました。

初日は午後1時半からで、会場は中小企業振興会館というところですよ。シンポジウムがはじまり、タイトルが「ソーシャル・インクルージョンをめざして」で、シンポジストで富田一幸さん、谷洋一さん、大場和正さん、炭谷茂さん、コーディネーターでわっぱの会の斉藤縣三さんの4人で始まりました。

分かりやすかったのが札幌にも一度来て話をしてもらったことのある、ナイス代表取締役の富田さんのお話でした。富田さんは大阪知的障害者建物サービス事業共同組合理事長でもあり、障がい者の雇用に力を入れている人です。また、障がい者だけではなく、弱い立場の人を授産施設で訓練して、そこから一般企業にいける人を育てるという考えをもった方です。施設なき授産という考え方で、富田さんの話は聞き入ってしまいました。夜は会館の横にある吹上公園で、炊き出しとして弁当が配られ、ホームレスの人たちと一緒に食べながら交流をしてきました。貴重な経験になってよかったです。



中小企業振興会館でのシンポジウム

2日目は午前から各分科会に分かれ、僕が出たのは第五分科会(異業種交流)でした。パネリストに、夏目

田紀子さん、丸尾亮好さんの3人で、コーディネーターでもあるねっこ共働作業所の白杉さんで始まり、それぞれの現場で



左から炭谷さん、大場さん、谷さん、富田さん

行なっている内容を話してくれました。

夏目さんの会社では様々な事業を展開おり、そのうちの一つに「タリーズコーヒー」の販売があります。そのコーヒーを信州大学病院内で知的障がいの人たちが仕事として販売しているとのことでした。その障がい者の人が入れてくれたコーヒーのおかげで、手術にミスをしないで済んだとお礼を言われたこともあったと話してくれました。過酷な動きで、睡眠もろくに取れていないときだったそうです。

丸尾さんは建物サービス事業協同組合で事務局長をしている方で、主にビル清掃の仕事を行なっています。ここでも知的障がい者がビルの掃除を自分の仕事として、一生懸命頑張っているとの報告でした。

鶴田さんは鶴田商会という会社で、ここでは70歳を過ぎてる人が働いており、年をとっても働けるんだと頑張っているところですよ。この会社の商品はなんにでも使える洗剤で、口に入れても心配のないものだそうです。

それぞれ大変ではありますが、あたりまえに働いて生活をしているとの報告でした。そのあたりまえの生活ができない今の世の中で、頑張っている人たちの話を聞いて、自分ももっと頑張ろうと思いました。

分科会が終わり、シンポジウムⅡ「社会的事業所の可能性—海外に学ぶ」シンポジストで、シン・ヨンホさん(韓国)、藤井敦史さん(立教大学コミュニティ福祉学部教授)、フェリーチェ・ロメオさん(社会的協同組合連合会議長・ミラノ市)、コーディネーターに野口(共同連副代表)ではじまり、それぞれの国の活動を報告してもらい、みんなで議論しました。

午後4時半からはまだ日本で上映されていないイタリア映画(やればできるさ)を見ました。イタリアの精神病院の中に協同組合があり、そこから働きに行くというお話です。重症の精神

病で強い薬を何錠も飲まされており、周りの人には働くななんて無理だと思われていた人たちが、薬を少しづつ減らしていき、働けるようになるというストーリーで、約2時間もある映画ですがおもしろくてあっという間に終わりました。札幌でも上映交渉中なので、あまり詳しく言ってしまうとつまらないのでこのくらいで。

夜は交流会で、共同連杯グループパフォーマンス大会で、みんなが盛り上がり飲んで食べて楽しい1日が過ぎました。



共同連杯グループパフォーマンス大会

次の日の23日は、夜遅くの便では電動車いすが入らないとのことで、昼過ぎの便で帰ることになりました。また2時間前に空港へ向かいましたが、やはり手続きに時間がかかり、お土産もゆっくり買う暇もなく過ぎてしまいました。

今回身体状況が厳しくて、行くことはできないと思っていたのですが、これから先ももっとひどくなるかもしれないので、思い切って行くことにしました。皆さんの協力で楽しく行けたので感謝しています。どうもありがとうございました。

愛知大会に参加しました

共働サービス たねや
所長 泉 友香

8月21日から共同連大会に参加してきました。ホールでの講義と分科会というさまざまな議題に対して勉強する場など、とてもとても充実した内容の3日間でした。

私は「食品製造」と「社会的排除をなくすネットワーク」の2つの分科会に参加しました。「食品製造」では各事業所の運営方法・事業の作り方・障がい者就労・食の安全といった課題について話されていました。私が所属している「たねや」では食品製造はしていませんが、ロウソク作りをしているので、製造する上で勉強になることはたくさんありました。社会に通用するものを作りたい・コスト・味・常に関手側に立つ・安全・品質に気をつけこだわりをもって商品を提供する・競争力のある事業の展開・社

会情勢を掴み、消費者のニーズに合った商品の開発をすすめるなど、甘えのない取り組みは本当に頭が下がりました。

「社会的排除をなくすネットワーク」では、共同連が21世紀になって、新たな課題として掲げたことがらで、その流れをくんで行われた分科会でした。ホームレス・引きこもり・在日外国人・シングルマザーなどの問題に取り組む人々との共通の議論と運動など各場の話を聞ける貴重な場でした。手を取り合ってやっていくことでの可能性の広がりみなさんの顔が輝いていたことが印象的でした。

他の大きな事業所では、働いている人たちの意識や理念の一定の統一が難しいとの声も出ていました。現在のライフの課題と重なる部分があるかもしれないと思いながら聞いていました。

シンポジウム会場に出店していた各事業所の製品は、ほとんどがしっかりとした製品ばかりで、取り組んでいる意識の高さを感じました。

シンポジウムの中で映画『やればできるさ!』も観れたのですが、みんなで仕事をしていく流れがテンポよく本当におもしろい作品でした。

一つ残念だったと思うことは、他の事業所への見学がなかったのも、今度はそういう機会があったら嬉しいなと思いました。

分けない！切らない！

共働事業所 もじや
亀井 貴也

設立25周年を迎えた共同連の第26回全国大会が、愛知県名古屋市で3日間に渡って行われた。今回のテーマは「分けない！切らない！共に働く『社会的事業所』を」ということで、全国から大勢の「共に働く」を目指す事業所の人たちが集まり、盛況だった。

1日目は格差社会の昨今の状況を踏まえ、「ソーシャル・インクルージョン」という「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」の理念を目指すという方向性で行われた。大阪、福岡、水俣の取り組みの経験から障害者支援のみではなく、様々な形での社会的弱者としての野宿者(ホームレス)、公害被害者、ニート・ひきこもりの若者、外国人、高齢者、薬物依存者、形余者、シングルマザーなどの女性、長期失業者などと

の連携を試みる「ソーシャル・インクルージョン」の実現に向けたシンポジウムが皮切りに行われた。続いて、昨年末、話題になった派遣村の村長を務め湯浅誠さんの講演の後には、会場となった名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）傍の吹上公園で、炊き出し用弁当を貰い、1日目の交流会がにぎやかに行われもした。

2日目は「社会的事業所」としてのあり方を模索する分科会が午前中行われ、「食品製造」「リサイクル」「農業」「店舗」「異業種交流」のテーマ毎に話し合いがもたれた。僕が参加した「異業種交流」は、滋賀県の「ねっこ共働作業所」の白杉滋朗さんのコーディネートによるものだった。財政難の大阪府で、社会福祉法人が組合員となった事業協同組合を立ち上げ、知的障害者雇用促進の建物サービス事業を展開する「エル・チャレンジ」の取り組みは札幌での講演会でおなじみのもの。加えて、愛知県豊橋市でパン工房を営む「花園パン工房ラ・パルカ」が県下の他、長野県にもアプローチかけ、民間企業と連携して、信州大学病院内に、タリーズコーヒーを開店させ、障害者雇用・就労プロジェクトを展開しているお話も民福の連携の実践例でした。その中で、少し異色な取り組みとして聴いた、電熱線やステンレスなどを扱う老舗の鶴田商会で、エコ・ライフの提案に取り組むエコ・ブランチを立ち上げた鶴田紀子さんの、従業員が働きたいという限り雇用し続ける「定年のない雇用」を実践するお話は、並々ならぬ企業努力が自分たちの願う社会を守り続ける証であるかのように、自信に満ちたお話で、収穫でした。

午後は「社会的事業所」が活発化しているイタリア、韓国、フィリピンのそれぞれの国の取り組みが紹介された後、イタリア映画『やればできるさ』(SI PUO FARE [僕にも出来るの])が上映され、イタリアにおける精神病院を協同組合に変えていく物語には、生産性が低い人も社会参加する



ことで同等の対価を得るという趣旨には、会場中から盛大な拍手がわき起こりました。その

夜の交流会は、例年のグループパフォーマンスが行われる中、それぞれに「社会的事業所」の連携を強めるべく、交流が繰り広げられる楽しい一夜でした。

最終日は現在の社会問題を通し、目指す社会の模索をする分科会が全部で7つ行われ、僕は、「セーフティネット・所得保障」に参加しました。わっぱの会所属の市議会議員、斎藤まことさんの進行で、DPI日本会議議長の三沢了さん、リソースセンターいなっふの岡部耕典教授、日本障害者協議会にも関わられている石渡和実教授、お三方による生存として必要な所得保障の理念であるベーシックインカムはその認知度が低いためか、議論となりはしたものの、僕としては、もっと具体的、現実的な所得から天引きされる社会保障などの目減りの問題から、「働く」を基礎ベースに動いている共同連なりの「セーフティネット・所得保障」を話し合うべきと思いもした。労働でありながら、福祉サービスと位置づけられている「障害者自立支援」の利用料負担の問題などもある意味、所得保障の問題でもあると思うのだから。

午後は都合がつかなくビデオでの講演となった哲学者であり、NPO法人「森作りフォーラム」代表理事の内山節さんのお話はどのように自分たちの暮らしを守っていくが話され、暮らしが軽視されている現状を再認識させられました。それに続く共同連25周年記念のビデオは各地の活動を映し出すもので、各事業所毎の障害スタッフと健常スタッフの人数が示されていた。その作業内容毎に、障害スタッフが多く占めるところもあれば、健常スタッフの中に数人の障害スタッフがいるところもあり、どのような形態であれば、障害を持った人達も参加しやすい職場が出来るのかを模索しているように思われ、「共に働く」「共に生きる」が障害あるなしの主導権ではなく、「分けない！切らない！」社会の構築なのじゃないかと、大会三日間を振り返り、思いもした。

最後に大会資料として配られたもので、ネットで閲覧可能なものをライフのサイトにて紹介しておきます。

参考資料

<http://npolife.net/other/kyodoren09.html>

TO たね通DAY

共働サービスたねや

063-0812

札幌市西区琴似2条5丁目

マンションMOMO1F

営業時間 9:30~18:00

TEL (011) 614-1871

FAX (011) 614-1873

お電話お待
ちしており
ます!!

たねやの事業内容

たねやでは、オリジナルローソクや軽作業（チラシなどの折・丁合・帯止めなど）やデータ入力を行っています。いずれも責任をもって承りますので、ご連絡お待ちしております!!

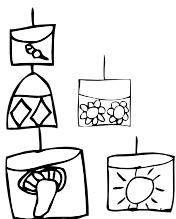
バザーにについての感想

同じライフのひだまりさんが参加するバザーにたねやのろうそくも商品として置かせていただきました。

バザーで売り子しにってきました。

直接、お客様とふれあって買ってもらいました。あいさつをして初めて商品をみてもらい、選んで買ってもらって、あいさつをして終わる。

ぼくが接客をするにあたって気をつけたことは、あいさつをまちがえないように気をつけました。次に気をつけたいことは、お客様がろうそくを見てどれが自分で作った物なのかとたずねられたときに答えられなかったことです。ろうそくは3つ売れました。



井口 真二

たねやの仕事について

軽作業という仕事では、キレイに物を折ったりすることが仕事になってきます。そのため、練習ということも大事なことです。手が空いたときなど練習を自主的にしていたりします。

ぼくは練習用のおびで合わせておる練習をしました。まだまだ、かみをせんにピッタリ合わせることができませんでした。仕事のおりも、まだまだななめにずれたり、まがったりします。

きんちょうがまだぞくぞくします。仕事のおりがずれちゃったりしたらどうしよう、ななめにまがったらどうしようというふあんがぼくに残ります。

宮澤 智成

帯まきのれんしゅうをしたら、40枚のうち2枚だけ失敗しました。38枚成功しました。

松村 亨

ぼくは、仕事の納品や引取りに何度も行っているうちに仕事が入るまでの流れが少しわかってきました。まだ経験したことのない仕事があるのでしてみたいです。次にしていみたい仕事は営業をしてみたいです。営業をして商品を実際に売る仕事をしたいです。

大島 隆也

仕事について、いろいろ体にむりがないようにしたいです。しらないときは、きくことにしたいです。ぶじにおわってほしいです。

関 隆広

いつもの朝は、朝礼から始まります。今日一日を楽しくやっいてこうと始まります。職場の内容は、折込み・丁合・つけ物袋などがあります。今月はつけ物袋と毎月ある仕事の折りなどでした。これから寒くなるので体力をつけなければならない今日、日々をやっています。

これからもガンバッテやってみます。

山口 敏明

※漬物袋とは、袋をたたんで販売用袋に入れて封をする作業です。



札幌市障がい者協働事業
共働事業所

きばりや キバラネット☆☆

個性豊かなスタッフが共に働いています。

上半期も終わり…

岡田 悟

今年度は早くも上半期が終わり、去年の上半期とほぼ同等の売上げが期待できそうです。しかし、6月に行った総会の予算と比べれば軽作業部門ではぎりぎりのところ。カフェ部門で言えば大きくかけ離れた数字となっています。DM発送やポスティング、テープ起こしなど月に定期的にいただく仕事が増えたことや、カフェのお客さんが定着してきた一方で、落ち着きすぎてしまっていることが数字にでているのではと頭を悩ませています。今後どういった事業ができるか、またどういった商品展開ができるか…。

余談ではありますが、カフェではひだまりで作ったピタパンを使用し10月の特別プレートとして提供しました。このピタパンがカフェの商品として続くかどうかはわかりませんが、商品の幅を広げるという意味では成功だったのではないかを思っています。きばりやの状況が今以上に寒くなってしまうよう、よりいっそう気を引き締めて下半期を取り組んでいきたいと思っています。

仕事について

真光 和徳

今年やったきばりや仕事内容は製本と折りとシール貼りをしています。他にも帯止めがあります。そして、いろいろな仕事をしていきたいです。



最近の仕事は・・・。

鈴木 昭子

私は10月に入ってからほとんど毎日のようにホール催しものが多いので、コーヒーをおとしたり、たまにスタッフのお手伝いをしたり、バタバタと日々みんなと協力しながら楽しく働いています。また、最近ではお客さんもどんどん増え、新規のお客さんにも徐々にカフェが定着しているのかな!? なんて思っています。

毎日、どんどん秋が深まっていくので体調には気を付けて働いていけないういあと思っています。

カフェきばりやについて

小西 学

私は今のカフェきばりやに入って一年経ちました。これからも末永く地域と共に豊かに楽しめる空間になったらいいなと思っています。

食品安全、健康安全を願いますように宜しくお願いします。

cafe de キバラヤ だより

カフェのメニューの中より、今回は「ハモス」を紹介したいと思います。「ハモス」は中近東で親しまれているお豆のディップのこと。ベジタリアンだけではなく、最近では体に気をつけている方にも人気が広がっています。カフェでは、Bプレートの1品としてこのハモスを出していますが、エルプラザご利用のお客さんにも徐々に広がり、SOLD OUTになる事もしばしば。

ぜひいち度ご賞味下さいませ。

スタッフ一同



エルプラザをご利用の際は館内においてコーヒー等の配達も承っておりますので、是非ご利用下さい。お待ちしております。

Cafe de キバラヤ

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内3階喫茶コーナー
TEL・FAX 011-758-6533



◇店舗編 お茶物語◇

藤井 孝雄

ひだまりでは、三重県津市にある『竹尾茶業』さんよりお茶を仕入れています。

有機番茶・無農薬ほうじ茶・煎茶・緑茶パウダーなど取り揃えております。

当店1番のオススメである有機番茶は、夏の暑い日には水出しに、寒い冬には温かいお茶として召し上がることができます。

最近バザー会場にて、お客さまに試飲してもらい、味を確かめた上で
お買い求めいただいております。

皆さまも是非、安心・安全な竹尾茶業さんのお茶をお試してください。



◇冬期限定商品◇

第三世界ショップより、今年も美味しいスイスチョコが入りました！

今年の新商品は「エスプレッソチョコレート」「ヘーゼルナッツチョコレート」各504円です。

10月22日頃には「ココナツミルクチョコレート」577円も入荷いたします。

また、毎年好評の「ウインターチョコレート」

と来店お待ちしております！



682円、「珈琲豆チョコ」388円、「クランベリーチョコ」367円も11月上旬には入荷いたしますので、
よろしくお願いします。



定休日：毎週日曜日・祝日

営業時間：お弁当11:30~13:30

店舗10:30~19:00

札幌市西区琴似2条3丁目2-37 サンハイム1F

TEL: 011-615-4131 FAX: 011-615-4132

◇新商品紹介◇

第三世界ショップより、今年も美味しいスイスチョコが入りました！

今年の新商品は「エスプレッソチョコレート」「ヘーゼルナッツチョコレート」各504円です。

10月22日頃には「ココナツミルクチョコレート」577円も入荷いたします。

また、毎年好評の「ウインターチョコレート」682円、「珈琲豆チョコ」388円、「クランベリーチョコ」367円も11月上旬には入荷いたしますので、
よろしくお願いします。



◇キッチンの材料特集◇

小野寺 恵

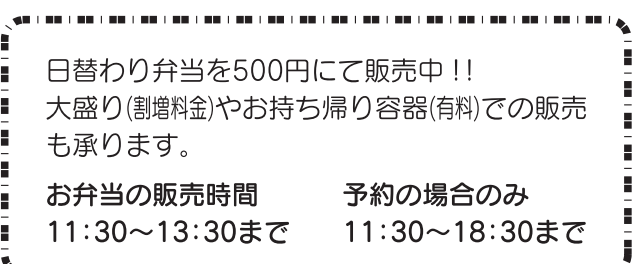
今回はお肉に続き、お魚のお話です。

お魚は市場から直接仕入れ、サバ・エビ・鮭などを味噌煮、エビチリ、焼き魚などでお出ししております。皆さまのご来店をお待ちしております。

キッチンが始動して1年になります。最初の頃は作業に戸惑っていたメンバーですが、今では包丁さばきも上達し、ほとんどのメンバーが野菜のみじん切りを得意としています。

今後とも、店舗・キッチンをご利用いただけますようお願いいたします。

また、ひだまりでは出張販売先およびお弁当注文先を大募集しております。お気軽にお申し出ください。柔軟に対応させていただきます。



日替わり弁当を500円にて販売中！！

大盛り(割増料金)やお持ち帰り容器(有料)での販売も承ります。

お弁当の販売時間

予約の場合のみ

11:30~13:30まで

11:30~18:30まで

ヘルパー派遣業務・在宅介護支援 ヘルパーステーション

ゆ い
繭結



アンクルかさいは、この本に感動しました！
大崎善生著 『聖(さとし)の青春』

たねやの仲間とお昼休み、将棋を始めた。久しぶりの駒の感触、いいものだ。将棋の気分のまま『聖の青春』を再読。何度読んでも目頭が熱くなる。そんな本の紹介です。

1998年、将棋棋士 村山 聖(さとし)八段、A級在位のまま膀胱腫瘍で他界。享年29歳。同年贈九段となる。広島市出身。

彼は5歳でネフローゼを患い、以後子ども時代のほとんどを病院で過ごす。そのとき父が与えた将棋盤が彼の生活を変えた。病院中を駆け巡っては発熱に悩まされていた少年は、病院的ベッドの上でひたすら将棋に没頭するようになった。毎日顔を出す母親に将棋の本を頼み、専門誌を読破し定石を覚え詰将棋を解く日々は、まったく新しい病院生活でもあった。解き放されたように聖少年はめきめきと頭角を現し、広島市の将棋道場に通い始める。普通の子どもはみな腕に覚えがある大人たちと戦って勝負勘を養うのに対し、彼のように一人で将棋を覚え、一人で技を磨いて成功した例は稀有だろう。

14歳で森信雄六段に師従、関西奨励会に五級で入会。2年11カ月後、四段昇段、念願のプロ棋士となる。奨励会には全国から将棋の天才少年たちが集まってくる。その天才たちの中でも、プロの四段に昇段できる者は10人に一人もいないのが現実。そんな奨励会を3年に満たない異例の早さで駆け抜けた聖少年だが、病気は一向に快方とならず、奨励会でも何度か病気で不戦敗や入院を繰り返している。

25歳で最高峰のA級に昇級。将棋会のベスト10人となる。将棋を覚えて19年。怪童と呼ばれ、特に終盤には恐ろしいほどの冴えをみせ、「終盤は村山に聞け」と棋士仲間から恐れられた。自分の力だけで生きる勝負師にとって「…村山に聞け」は最大の賛辞だろう。



2002年講談社刊

彼は髪の毛を切らない。爪を切ったりもしない。部屋の中の虫やクモも殺そうとはしない。すべて生きているからだ。風呂も体力を奪うから嫌いだ。すべての体力を将棋に注ぎ込むため、勝負が終わると必ず数日は寝込んでしまう。ネフローゼによるムーンフェイスのまま、傷ついた獣のように横になり、ひたすら体力の回復を待つ。関西の雄、谷川九段を倒すために、宿敵羽生善治を破るために。

ネフローゼという腎臓疾患に5歳で罹病、29歳で夭折するまで病気という障害に怯えず、立ち向かい、夢なかばで散った棋士「村山聖」。彼は生きる証として将棋があった。生き延びる糧として勝負があった。将棋はそのための道具であり、勝負は未来への道程であった。将棋版の向うには村山聖の果てしない大空があった。彼は腎臓を患い、膀胱を摘出し肝臓に癌が移転しても、将棋に向かい続けていた。ベッドの上での最後の言葉は「8六歩、同歩、8五飛…」と棋譜を誦んじ「2七銀」で突然止まった、と母親は語ったという。

共働事業所

もじら

冬のたふいが届きました

印刷に思うこと

製作スタッフ 加藤 信一

印刷の技術力アップはめまぐるしいものがある。今一番需要のある仕事は新聞の折り込みのチラシだそうである。

スーパーやパチンコなど山のようにチラシがはいっているけれども、あのフルカラー印刷はこれからも伸びるようです。

ただ、小規模のプリンターでできるものは、やはりオンデマンド（必要な物を必要なだけという意味らしい）が主流になってくると思います。名刺・ハガキ・封筒etc…いままでのようにオペレーターという仕事は少なくなってしまうでしょう。

また基本的に紙を節約する時代にはいっていますから、いかに印刷せず、データ化するか、そういう環境に対する問題も含んでいますので印刷の必要性が問われます。



＊ かつて印刷の仕事は極めて繊細で、しかもハードな仕事でした。時代は変わって印刷の技術も進歩してしまいました。確かにすばらしいことだと思いますがなんとなく淋しい気持ちも残ります。

コラム

障がいと言っても身体障がいだけでなく、精神障がいというものもあり、特に精神障がいはなかなかわかってもらえない（理解に難しい）部分があると思います。

以下、簡単に書いてみました。どうぞ一読を。

皆さん、精神病と聞いて何を思い起こしますか？何か、犯罪があると必ず、「精神科受診歴あり」なんて報道されたりします。ただ、精神科といってもいろいろありまして、今回は“うつ病”について触れてみたいと思います。

人は誰でもイヤなことがあると憂うつになりますよね。それは普通の人間の心理です。

しかし、普通の人は日々いろんなことがあるうちイヤなことも薄れ、しだいに忘れていきます。ところが、憂うつ感がなかなか晴れない、晴れないどころかどんどん暗くなっていきます。

仕事に行きたくない、休日のゴルフも行く気がしない、ごはんもなんとなく味気ない。そんな状態が長くつづいてしまうのです。こうなると、“憂うつ”の範囲を超えて“うつ病”と、診断される可能性があります。

昔は、精神病院に行くこと自体怖かったイメージがありますが、最近では〇〇クリニックという名前になり気楽に受診することができますし、薬も良くなってきているので安心です。

最近、なんとなく「体調がすぐれない」という方は“心の風邪”と思ってみてください。

精神保健相談

TEL: 6 2 2 - 0 5 5 6

(平日 9:00 ~ 17:00)

夜間・日・祝日 救急センター

TEL: 2 0 4 - 6 0 1 0

命の電話

TEL: 2 3 1 - 4 3 4 3

(24時間)

もじやオリジナル年賀状 印刷受付中!!

NPO法人ライフホームページからでもご覧になれます。
ご注文は、必要事項をお書きのうえ、下記のメール・電話・FAX・郵送にて受け付けています。

また、ホームページから申し込み用紙のプリントが出来ますので、ご活用下さい。

●最終締め切りは、**12月15日(火)**
●出来上がりは、ご注文から2週間後位になります。



共働事業所 もじや

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5

マンションMOMO1F

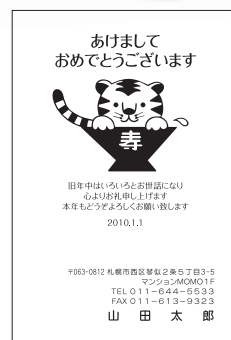
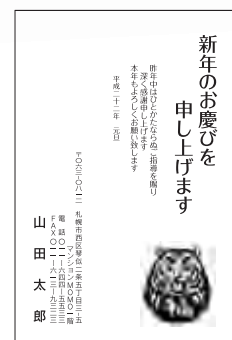
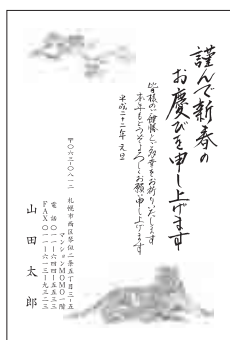
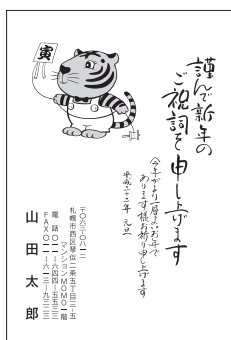
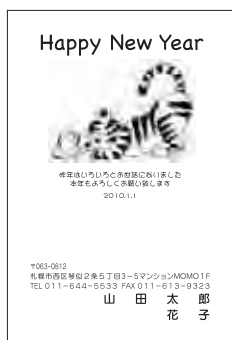
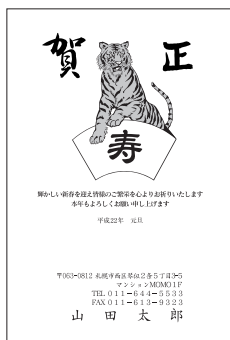
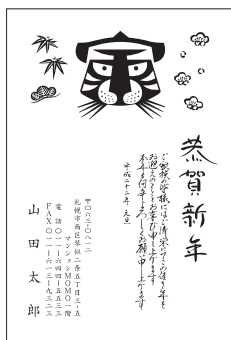
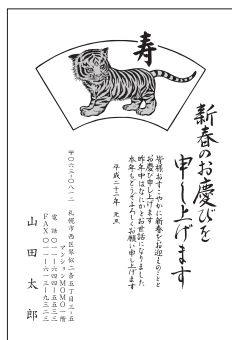
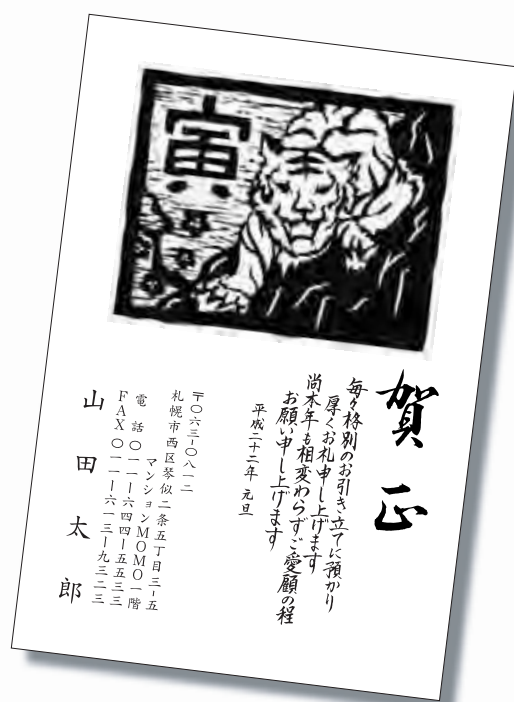
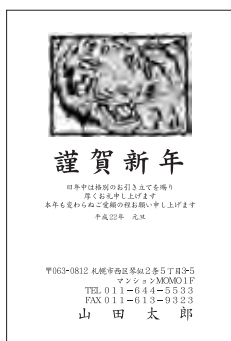
TEL(011)644-5533

FAX(011)613-9323

E-mail : mojiya@adagio.ocn.ne.jp

URL (年賀受付ページ) :

<http://npolife.net/nenga/index.html>





Cafe de キバリヤ

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内
3階喫茶コーナー TEL・FAX 011-758-6533

11月限定プレート
11/19(木)~11/25(水)

**おからのニョッキと
野菜の具たくさんスープ**

◎野菜汁ラダ
◎キャラウェイシードの素朴なパン
◎季節の焼き菓子
◎コーヒー or 紅茶

¥500

事務局から

下肢に障がいがある者にとっては憂鬱な季節がやってきました。『もしや』ではスタッフの通勤時のサポート態勢をどうするか、検討を始めました。また、誰かが風邪気味だと聞くと、「新型インフルエンザでは？」と戦々恐々としています。

過日の『第3回いんでないかいバザー』では、皆様のご協力をいただき、ありがとうございました。売り上げはいまいちでしたが、それぞれが充分楽しみながら過ごした一日だったように思います。内部だけで盛り上がった感がなきにしもあらずですが、今後は、バザーに拘らずに、『ライフ祭り』のような企画があってもいいのかなー、と感じました。

一部事業所が移転し、NPOライフが少しずつ生まれ変わっていきつつあります。新体制になり、スタッフも増え、今までの組織運営方法では行き届かなくなってきたようです。大きな変革を必要としているのでしょうか。

ご協力ありがとうございました
💡💡💡

アドボケイト購読料

ありがとうございます💡

編集後記: アドボケイトの2009年8月10日号の表紙に108号、9月10日号の表紙に109号と記載されていましたが、8月号は109号、9月号は110号の誤りでした。2カ月に渡り誤っておりましたことをお詫びさせていただきます。今後このようなことがないように最善の注意をさせていただきますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

同封しました郵便振込用紙は、請求ではありません。必要な方にお使いいただくために同封しておりますので、ご容赦願います。

なお、振込をいただく場合は

- ・維持会費 1口 10,000円 (何口でも可)
- ・賛同会費 1口 3,000円 (何口でも可)
- ・アドボケイト購読費 年会費 2,400円
- ・共同住居建設資金
- ・寄付金

などをご記入くだされば幸いです。

アドボケイト 11月号 (第112号)

2009年11月10日発行 (毎月10日発行) 通巻第452号

HSK通信1973年1月13日第3種郵便物認可

発行人/北海道身体障害者団体定期刊行物協会

細川 久美子

〒063-0868 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

編集人/NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ

事務局長 石澤 利巳

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションモモ1F

TEL 011-633-6666 FAX 011-615-4132

E-mail npolife@beach.ocn.ne.jp

ホームページ http://npolife.net/

郵便振替口座 02710-4-63485